

## 令和元年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

「もし税がなかったら」

奈良県立磯城野高等学校 一年 日口 晴仁

もし税がなかったら？そんなことをふと考える事がある。

僕のバイト先の前は大きな道路がある。夏休み中バイトの最中に何回救急車を見たことか。あの車が行く先には具合が悪くなった人や怪我を負った人がいることだろう。その時もし税がなかったらどうなっているだろうか。まず、救急車なんてものは存在しない。存在していたとしても、あの大きな道が穴だらけだったら走ることできない。もし道の修理代がない場合、お金を払うのは私たち国民になる。僕の住んでいる地域には、「集金」がある。私たちが税金を払わなければ、国は大規模な「集金」をするだろう。

テレビや新聞などで税金を減らしていき、税金ゼロパーセントを目指している人や政党を見たり聞いたりしたことがある人も多いはずだ。確かに彼らの意見は税金に不満のある人には共感できるものであろう。だがその後についても考えを巡らせてほしい。現状、膨大な借金を負っている日本がそれぞれの地域の道を直す代金や、公務員への給料、社会保障費などで使われるお金を全て負担できることは困難なのではないかと思う。そこで行うのは借金をするか国民からお金を納めてもらうことの二択になるだろう。みなさんはどちらが選ばれると思うだろうか。私は国民が一定の額のお金を月一回程度納める方法が選ばれるのではないかと思う。しかし、そこでまた新たな問題が発生するのではないだろう。お金持ちと貧しい家庭との格差が広がってしまうと私は考える。税金であれば、例えば消費税に着目してみると買い物の多いお金持ちが多く負担することになるだろう。これはバランスのとれたよい関係だと思う。しかし、集金になるとお金持ちの家も貧しい家も一定の額を払わないといけなくなるので、格差が大きくなり、バランスが崩れるのではないだろうか。そうなると国自体が悪くなってしまうと思う。

百均の商品一つにつきたかが八円。しかしその八円がみなさんが見ている救急車の向う現場の人を助けている。その他さまざまな形で税を払うことによって、私たちは住みよい日本を作っている。みなさんも救急車一台から思いを巡らせてみるとどうだろうか。